統一宮入で熱気最高潮

勇壮に参道を練り歩く担ぎ手たち

「ヨッサー、ヨッサー」「ドンドンドン」。威勢のいい掛け声と太鼓の音――。八幡に夏の訪れを告げる「太鼓まつり」が7月18～20日に行われ、屋形太鼓の担ぎ手たちが町内を練り歩きました。

同まつりは高良神社の例祭で、例年18日に「宮入」が行われてきましたが、全ての区が参加という統一宮入ができない年もありました。このため、太鼓まつり連絡協議会は、今年から「宮入」を「海の日」の前日に変更し、毎年、全ての区の参加を可能としました。

同会会長の山田勝三(かつみ)さんは「毎年の統一宮入は長年の目標で、やっと願いが叶いました。各区でかき方も違うので、観客の人たちにはそこも楽しんで欲しいです」と話していました。

夏の訪れ告げる「太鼓まつり」

そして、迎えた「宮入」当日。同神社前には、子ども屋形太鼓3基と、3年ぶりに各区の屋形太鼓4基が揃いました。

法被姿の担ぎ手たちは、屋形太鼓を力強く揺さぶり、各区の特色を出しながら参道を往復。その勇壮な姿と統一宮入ならではの熱気に、観客たちからは拍手と歓声が沸き起こっていました。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。
身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

和 感じるうちわ作り

うちわにデザインを施す児童たち

くすのき小学校の6年生が7月8、9日、竹や和紙を使ったうちわ作りを行いました。

この学習は、職人の技やデザインを児童たちに体験してもらい、日本の文化を学んでもらうために実施されました。また、エジソンが電球のフィラメントに八幡の竹を用いたことにちなんで、うちわの骨組みには竹が使われました。

児童たちは、はじめに八幡とエジソンの関係について学んだ後、講師の京都府京都文化博物館職員の説明を聞きながら、うちわ作りに取り掛かりました。

まずは、竹の骨組みに和紙を貼り、はみ出した部分をはさみでカット。うちわのへりに細い紙を貼る作業では、難しそうにしながらも、丁寧に進めていました。

最後に、色とりどりの和紙を好きな形に切ったり、ちぎったりしてうちわに貼り、花火や金魚など自分の好きなデザインに仕上げていました。

山地紘人(やまじひろと)くん(11)は「竹のうちわは、初めて作りました。『和』な感じがしていいです」と笑顔で話していました。

親子で飾る七夕の笹

七夕を前にした7月3日、八幡第三幼稚園で七夕参観が行われ、3、4歳児が親子で七夕の飾り付けをしました。

同園では、園児たちに日本の伝統行事を大事にしながら夢を広げてもらおうと、毎年、七夕の飾り付けをしています。

笹は、老人憩いの家「八寿園」から提供してもらい、5歳児は前日に、八寿園で地域の人と七夕交流をしました。

笹飾りは、4歳児は自分たちで作り、3歳児は親子で一緒に作りました。

園児たちは、折り紙で彦星と織姫を折ったり、折り紙の星に長めに切った紙テープをのりで貼り付けて流れ星にしたり、お父さんやお母さんに手伝ってもらいながら上手に作っていきました。

完成したら、願い事を書いた短冊と一緒に笹に飾り付け。「みんななかよくできますように」などの思い思いの願い事が書かれた短冊を、かわいらしい飾りと一緒に笹にくくり付けていました。

笹に飾りをくくり付ける園児

出し物満載!「サマー親子ランド」

園児に保護者と一緒にたくさんの出し物を楽しんでもらおうと7月2日、「サマー親子ランド」が八幡第四幼稚園で開催されました。

このイベントは、実行委員の同園PTAを中心に、地域の人の協力も得て毎年開催されており、入園前の子どもたちも招待しています。

今年のテーマは「ドリームワールド」。園内は星空やロケット、UFOなどで飾り付けられました。

開園の合図が告げられると、浴衣姿の子どもたちは保護者と手をつないで、スーパーボールすくいや短冊づくり、大型紙芝居やゲームコーナーなど、いろいろな出し物に向かいました。

転んだりしても安全なようにチラシを細長く刻んで敷き詰めた「こうこくプール」では、子どもたちはチラシを両手いっぱいに抱えて舞い上げたり、プールの中にもぐったり。普段なかなかできない遊びにはしゃぎ回っていました。

イベントの最後には、レンジャーショーや先生による出し物も行われ、子どもたちは楽しい時間を過ごしていました。

チラシを舞い上げる子どもたち